

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

## 静岡・山口・岩手大雨災害 緊急支援 活動報告書

実施期間 2013年7月22日～9月2日

活動場所 西伊豆町(静岡県)、山口市・萩市(山口県)、雫石町(岩手県)

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト/English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

# 西と東の緊急支援を同時展開

## 全国の災害ボランティア・ネットワークが試された

2013年7月～9月、ピースボート災害ボランティアセンター(以下、PBV)では、全国各地で発生した大雨災害に対し、静岡県賀茂郡西伊豆町、山口県山口市と萩市、岩手県岩手郡雫石町で緊急支援を行いました。いずれも高齢化が進んでいる地域、地元住民だけですべての復旧作業を担うのは厳しい状況でした。一方で、PBVとしても宮城県石巻市での東日本大震災復興支援も継続しながらの活動。それぞれの現場に必要な人数のボランティアを集められるかどうかポイントでした。

最終的に延べ600人以上(日別総活動人数)のボランティアが参加してくれ、「災害ボランティア・トレーニング」を単なる教育の場だけでなく実践の緊急支援につなげられたこと、全国各地で広げてきた企業やNGO/NPO、社会福祉協議会とのネットワークが活かしたことが大きな成果でした。



## 被害状況

7月、8月に相次いで発生した記録的な大雨・集中豪雨は、各地で浸水や土砂崩れの被害をもたらしました。発災から数日、PBVが緊急支援を行った地域でも、現地社会福祉協議会や地元NPOが災害ボランティアセンター(以下、災害VC)を立ち上げ、清掃活動などのボランティア募集を始めていましたが、複数の地域が同時に被災した影響もあり、特に都市部から離れた地域ほど復旧作業が遅れていました。

**山口市周辺(山口県)**  
県内浸水2,040棟以上、土砂崩れなど



**雫石町(岩手県)**  
県内浸水170棟以上、土砂崩れなど



**西伊豆町(静岡県)**  
県内浸水290棟以上、土砂崩れなど



# プロジェクトの概要・実績

## 西伊豆町(静岡県)

現場で活動を始めたのは、発災から4日後の7月22日。緊急支援の初動を早めるために設置した災害ボランティア資材倉庫の存在、南海トラフを想定して広めてきた静岡県内の団体とのネットワークなどが上手く活かされました。

**活動期間** 7月22日～7月30日  
**ボランティア数** 日別のべ活動人数 **112人**(派遣人数 **37人**)  
**活動内容** 家屋などの清掃、災害VC運営サポート



## 山口市阿東地区、萩市(山口県)

西伊豆町での活動終了直前に発災。コーディネーターと使用していた資材・車両を西日本まで移動させて支援を始めました。PBVには、宮城県石巻市から、そして中国地方や九州からのボランティアが中心に集まり、現地災害VCに集まる個人ボランティアとともに活動しました。

**活動期間** 8月1日～9月2日  
**ボランティア数** 日別のべ活動人数 **317人**(派遣人数 **55人**)  
**活動内容** 家屋などの清掃、災害VC運営サポート  
 地域交流会での炊き出し(萩市)



## 雫石町(岩手県)

3つ目の現場となったのは東北。東日本大震災の復興支援を行う団体が多く駆けつけました。PBVでは、宮城県石巻市からのボランティアバス(ワゴン)を募集、震災復興を目指す市内の漁師もボランティアに初参加するなど、徐々に支援の輪が広がっていきました。

**活動期間** 8月17日～9月2日  
**ボランティア数** 日別のべ活動人数 **193人**(派遣人数 **65人**)  
**活動内容** 家屋などの清掃、災害VC運営サポート



## 活動カレンダー

7月	18日	山形県、静岡県などで豪雨による被害が発生
	21日	西伊豆町での緊急支援を決定。ボランティア募集を開始
	22日	コーディネーター、ボランティア準備隊5名が西伊豆町に到着 ボランティアによる清掃活動と災害VC運営サポートを開始
	28日	山口県・島根県などで豪雨による被害が発生
	30日	西伊豆町での緊急支援が終了。東京に戻り、山口・島根への支援の打ち合わせ
8月	1日	山口県・島根県へ先遣スタッフ3名が東京を出発
	3日	山口市での緊急支援を決定。ボランティア募集を開始
	5日	山口市阿東地区でボランティアによる清掃活動と災害VC運営サポートを開始
	9日	岩手県・秋田県などで豪雨による被害が発生
	18日	先遣スタッフ2名による岩手、秋田の現地調査
	20日	雫石町での緊急支援を決定。ボランティア募集を開始
9月	2日	山口での緊急支援が終了、雫石町での緊急支援が終了



# ボランティアの声 – トレーニングで学んだ経験を現場へ

「きちっと組織されていれば、より多くのボランティアがより多くの被災者の役に立てる」これを具現化するには、「受援力」と呼ばれるようになったボランティアを受け入れる仕組みやコーディネーション、そしてもう一方、被災地に向かうボランティア一人ひとりの知識や心構えなどの事前準備が大切です。

2011年11月に「リーダートレーニング」をスタート、2012年9月には「災害ボランティア入門」「災害ボランティア検定」「リーダートレーニング」「スキルアップ」の4つのステップに広げて続けてきた「災害ボランティア・トレーニング」では、この1年半で延べ2,000人を越える修了者を輩出してきました。PBVからのfacebookやメールを通じた呼びかけ、修了者同士が声を掛け合い、60名を越えるメンバーが現場に駆けつけてくれました。



## トレーニング(災害ボランティア入門、リーダートレーニング)修了者の参加実数

プロジェクト	ボランティア派遣数	「災害ボランティア入門」修了	「リーダートレーニング」修了
西伊豆町	37人	8人	13人
山口市、萩市	55人	12人	11人
雫石町	65人	8人	9人
合計(延べ)	167人	28人	33人

PBVの活動は2011年度の石巻で知りました。その後も東京でのトレーニングに参加し、次に災害が起きた際には現場に行こうと決めていました。遊びもバイトもあったけれど、「今自分がやるべきこと、行くべき所は支援を必要としている現場だ!」と迷わず参加を決めました。

災害ボランティアができることは限られているけれど、自分のやるべきことが明確に見えたし、やれることをやろうと思いました。「ボランティアは無償だし、どうしてやっているの?」とよく聞かれるけど、やってみたら分かります。学生でも「誰かのための自分であること」にやりがいを感じることができます。

この日本で住んでいる限り、災害は起きるものです。今後も災害が起きた時に、日本中で助け合うためにも、全国の学生に参加して欲しいです。

西伊豆町、雫石町でのボランティアに参加  
松下大樹さん(学生、トレーニング修了者)

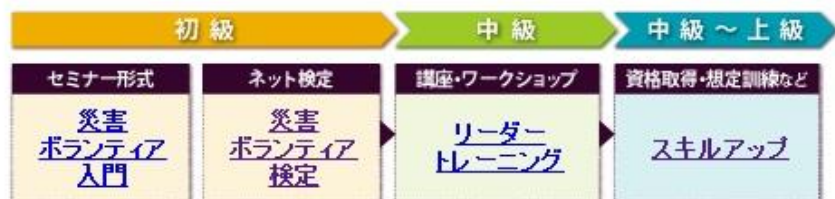
西伊豆は父の故郷を思い出させる何処か懐かしく海と夕日のキレイな町でした。

私自身3.11により被災者という立場を経験しており「日本のどこにいても、いつ災害に襲われてもおかしくない」と思い、ピースボートの船旅でトレーニングを受講しました。帰国直後に、それを役立てる時が来たことに少し不安もありましたが、全国・世界中から支援して頂いたことへの感謝もあり、一歩踏み出しました。

西伊豆町では、地元の迅速な対応と地域の方々や小・中学校の災害に対する意識の高さに驚き、初めてボランティアに参加した私は助けられることの方が多かったと思いました。私にとってのボランティアは「ありがとう」を伝える場でもあるので、経験を積み、もっと活動を続けていきたいと思っています。

西伊豆町、雫石町でのボランティアに参加  
熊谷江美さん(石巻市出身、トレーニング修了者)

## 災害ボランティア・トレーニング



災害に対する基本知識や自分の身を守る方法、ボランティアの心構え、過去の失敗から学ぶワークショップ、野外での宿泊型トレーニングまで、全国各地でレベル別・テーマ別を実施しています。PBVが緊急支援を立ち上げると、修了者にもボランティア募集のメールが届く仕組みで、全国的なネットワーキングにも取り組んでいます。

## 現地パートナーから ー 平時のネットワークこそが初動に

西伊豆町、山口市・萩市、雫石町それぞれの活動現場では、社会福祉協議会と地元 NPO らが運営する災害 VC(※)と連携・協働する形で支援活動を行いました。外部から応援に入る団体にとっては、現地事情に詳しい地元とのパートナーシップが大切になります。東北での活動や、防災訓練などを通じて培ってきた信頼関係と顔の見えるネットワークが活かされました。

(※)東海地震を想定する静岡県では、「災害ボランティア本部」など呼称が異なる場合があります。



2013年3月、静岡で行われた災害ボランティアの防災訓練

「震災がつなぐ全国ネットワーク(以下、震つな)」は、阪神・淡路大震災を契機に知り合った支援者たちが、被災者に寄り添う視点を大切にしながら活動するネットワーク組織です。今年7月、静岡県西伊豆町を襲った豪雨により、今年初の災害VCが開設された際、震つなとして支援活動に関わりました。誰に応援要請をしようかと思っている時に、PBVさんから長期での活動申し入れをいただき、安心して現場を担っていただくことができました。PBVさんとは石巻で活動を共にしたこともありましたが、やはり毎年3月に開催されている静岡での図上訓練でのつながりが、この度の連携に結び付いたのだと実感しました。今後もこのようなつながりを大切にしていきたいと思えます。

震災がつなぐ全国ネットワーク事務局長 松山文紀さん

この度は、突然ボランティア受入の役目になり、大変多くのボランティアの方に来ていただき何もわからないまま数日間が過ぎました。しかしこの間、初めてお会いした多くの皆さんに応援していただき、しかも折に触れて適切な助言をしていただきました。なかでもピースポートさんは暑い一日の活動が終わった後でも、どこにそんなにエネルギーがあるのだろうと思うほど明るく笑顔で接していただきました。

私たち職員もそうでしたが、被害を受けられた阿東の方々も、やさしく明るい笑顔でたくさんの温かいエネルギーをいただいたと心より感謝しています。

山口市社会福祉協議会阿東支部 事務局長 福口雅夫

## 企業からのご協力

これまで、国内外問わず、発災後に立ち上げるPBVの災害救援プロジェクトはいつも資金ゼロからのスタート、参加するボランティア個人からの負担や街頭募金などで活動費を集めてきました。今回、複数のプロジェクトを実施するにあたり、現地調査やボランティアの活動環境を整える先遣スタッフによる初動資金などは、2013年3月にご支援いただいた東京海上日動火災保険(株)「Share Happiness 倶楽部」からのご寄付を活用させていただきました。

また、東京トヨペット(株)からは西伊豆町と雫石町での活動用に備蓄水580本を、(株)ラッシュ・ジャパンからは雫石町での活動用にボディソープ200個をご提供いただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。





# 東北被災地からの応援

## ー石巻の漁師がボランティアに

これまで、世界中から受けた支援を、今度どこかで災害が起こったときにお返ししたいという、東北被災地の方々の気持ちは何度も耳にしてきました。隣県での災害だったということもありましたが、雫石町での水害に石巻市牡鹿半島の漁師がボランティアに参加してくれたり、現場には来れなくともメッセージ入りの作業道具をご提供いただいたりと、石巻からもたくさんの応援がありました。

漁師らに声をかけたのは、2011年の5月からPBVの長期ボランティアとして活動を続け、今年から石巻市内の水産加工工場で働くようになった五百田紗江さん。「災害が起きて、支援を必要とする人がいて、何か自分にできる形で支援をしたいと思う人がいる。その兩者をつなぐことも大切なことなんだと思いました」と言う彼女の言葉からも、改めてこれまでの出会いとつながりを活かした防災や減災の形を探っていく意味を感じました。



## メディアでの紹介

8/7 山口新聞／8/25 岩手日報／8/26 盛岡タイムス／9/13 石巻かほく

## ご協力いただいた企業・団体（略称表記）

阿東文庫／雫石町社会福祉協議会／雫石町役場／震災がつなぐ全国ネットワーク／東京トヨペット／西伊豆町社会福祉協議会／西伊豆町役場／宮城県水産高等学校／山口市社会福祉協議会／山口市役所／ラッシュ・ジャパン／Share Happiness 倶楽部／Youth for 3.11

その他、物資提供やご寄付など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。個人情報観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に感謝申し上げます。

## 収支報告

		(円)
収入	個人寄付	564,170
	企業寄付	464,479
	合計	1,028,649

		(円)
支出	車両管理費	75,574
	交通費	666,179
	消耗品、備品代	41,305
	炊き出し食材費	26,961
	人件費	216,000
	通信費、ほか雑費	2,630
	合計	1,028,649

※プロジェクト立ち上げの初動資金には、東京海上日動火災保険(株)の「Share Happiness 倶楽部」からのご寄付を使わせていただきました。

## 活動を振り返って



ピースポート災害ボランティアセンター  
理事／プログラム・オフィサー  
上島安裕

今回ご報告した夏の水害に続き、その後すぐ近畿地方や伊豆大島で台風・土砂崩れによる被害が発生しました。毎回、東京や石巻市で行う活動を調整し、現場入りするコーディネーターとともに緊急支援を立ち上げるのですが、正直 1 年間でこれほど頻繁に出動することになるとは思っていませんでした。

災害支援には、「ひと・もの・かね・情報」が必要とされます。災害ボランティア・トレーニングによる「ひと」、資材倉庫の整備や企業からの物資提供による「もの」、サポート会員や初動資金へのご寄付による「かね」、全国各地の社会福祉協議会や NGO/NPO とのネットワークによる「情報」、どの準備が欠けていてもこれだけの災害に対応することはできなかったでしょう。逆に、これらの準備こそが、PBV にとって防災・減災そのものなんだろうと思います。

年を追うごとに災害の発生頻度が増すように感じています。ボランティアで、ご寄付で、会員としてこの度の緊急支援を支えてくださった皆様に感謝申し上げるとともに、これからも PBV の活動と被災された方々へのサポートにご協力のほど、よろしくお願いいたします。



## 「サポート会員」になって、 PBV の運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBV の運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBV の運営を財政的に支える基盤になります。

### ●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000 円

団体 一口 100,000 円

※二口以上のご協力も可能です。

### ●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

### ●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

---

### 「ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）」

PBV は、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースポート」が設立した一般社団法人です。ピースポートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神・淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティア・リーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp>

---

### 静岡・山口・岩手大雨災害 活動報告書

発行：一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター  
編集：上島安裕、垣貫紀彦、合田茂広、山本隆  
発行日：2014年1月9日  
写真：Shoichi Suzuki

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1  
TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073  
E-MAIL:kyuen@pbv.or.jp  
URL: <http://pbv.or.jp/>